

用語解説

外水氾濫

- ・洪水が堤防を越えて居住地側へ氾濫する現象です。

内水氾濫

- ・洪水で川の水位が上がることで降った雨を適切に排水できなくなり、居住地側で氾濫が生じる現象です。

内外水統合型

- ・令和 4 年度に公表したリスクマップは国管理区間の氾濫（外水氾濫）のみを対象としたものでした。今回公表する図面は、内水氾濫と外水氾濫を一体的に解析できるモデルを使用したことで、より浸水実績や地域の実感に近いリスク情報になると期待されています。

多段階浸水想定図

- ・想定最大規模に加え、高頻度～低頻度までより頻度の高い降雨規模ごと（年超過確率 1/10・1/30・1/50・1/100・1/150）に浸水エリアと浸水深を示した図です。

水害リスクマップ

- ・多段階浸水想定区域図を重ね合わせ、浸水深毎（0m 以上、0.5m（床上浸水相当以上）、3.0m（1 階居室浸水相当以上）に浸水エリアと浸水頻度を示した図です。

【参考】洪水浸水想定区域図（ハザードマップ）との違い

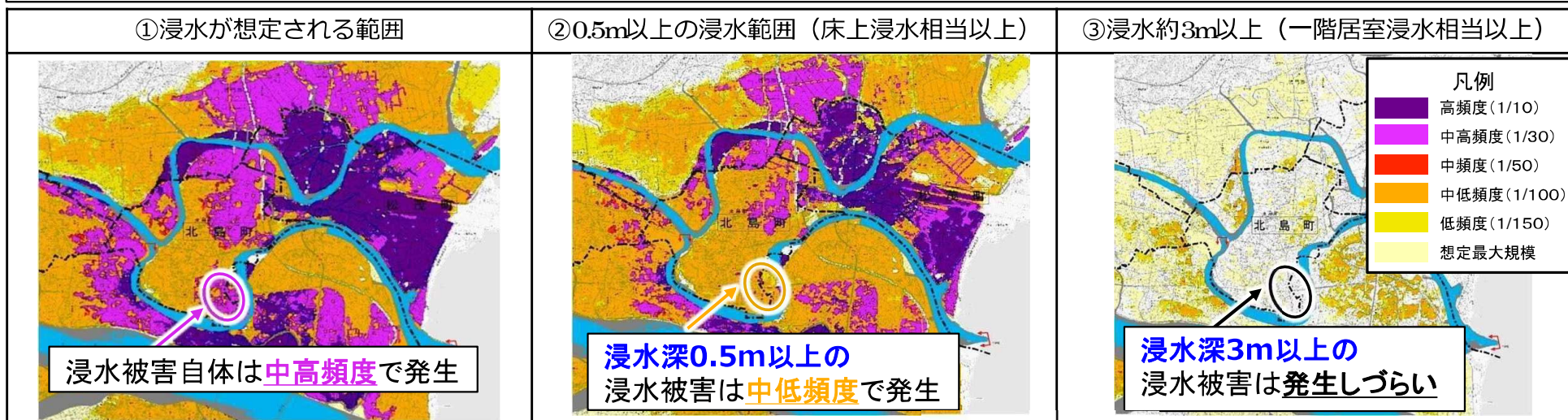
- ・ハザードマップで用いられる洪水浸水想定区域図[※]は、想定最大規模の降雨を対象とし、避難行動の検討に資する「浸水エリア」と「浸水深」を示した図面です。
- ・本図面では、より発生頻度の高い高頻度～低頻度の降雨も対象とし、「浸水エリア」と「浸水深」に加えて「発生頻度」を把握できるようになりました。
- ・気候変動の影響により豪雨の激甚化・頻発化が課題となる中、水害リスクを踏まえた土地利用の促進や住まい方の工夫など、「流域治水」の検討に活用しやすくなりました。

※洪水浸水想定区域図は、国管理河川

水害リスクマップの活用例

【別添2】

- ・ 水害リスクマップでは、3つの浸水深ごとに浸水被害が発生する**浸水範囲**と**浸水頻度**を把握できます。
- ・ 主に土地利用や企業立地選択といった**防災まちづくりの検討**に活用できます。



浸水深毎の使い分け（例）

① 浸水が想定される範囲

- ・ 頻度の高いエリアへの住居・施設の立地を避ける
- ・ 洪水流を防御するための止水壁を設置する
- ・ 保険を見直す
- ・ 室外機や電源を高所に移設する

② 0.5m以上の浸水範囲（床上浸水相当以上）

- ・ 事業継続に必要な資材や資産などを2階以上に移動させる

③ 3.0m以上の浸水範囲（一階居室浸水相当以上）

- ・ 1階をピロティ構造とし、寝室や居室は2階以上に配置する



保険の見直し



室外機の高所移設



止水壁の設置



高床化による浸水対策